

四谷の

千枚田だより



第174号

げなげな斬

・清崎の田内、塩津、小代、神田の田代、平山そして四谷の大代は黒瀬郷(約四百八十年前)から独立、田内郷として各地域を包括していた。

・鞍掛山を中心に「神田」、「田代」、「田内」、「小代」、「大代」、「下モ田」、「田の口」、「棚田」、「池田」、「百田」など田んぼに関わる地名が多く、大昔から鞍掛山(湧き水)の恩恵は大きかった。

設楽町の小代集落は明治十一年、郡区町村編成施行により設楽郡は南北に分けられ大代村の分地小代は清崎村に合併した。鞍掛山は現在、設楽町地内であるが、もし、小代が大代村字小代であったなら鞍掛山は新城市四谷であったか? などと有らぬことを思ってみた。

(舜)は時に触れ、地域の歴史や出来事などを「千枚田だより」や「寄稿文」に掲載しているが、これらを基に時々勘違いがネットに流されている。例えば「約四百年前には、すで

に田んぼがあった…」が、「約四百年前に開墾され…」とか、

「繰り返す山崩れにめげず…」など、また、秒間二十リットの湧水が…においても、昭和三十年後半には鞍掛山全域で「ワラビ採り」ができた当時の事で、今では植林された針葉樹が木材の需要低迷で放置林化され、湧水が枯渇、秒間七〜十リット程度までに減ってしまった。かつては千三百枚近くあった田んぼも減反施策で四百余枚、皮肉にも、水量と耕作枚数のバランスが保たれている。昔は確かに雨が降っても濁る

ことはなかったし、大雨が降っても水源の不動様の湧水が増えるのは数日後から一ヶ月近くもかかり、逆に急に水量が減ると雨が降ったものだが、今では降った雨は草木一本ない荒廃林を流れ下り、一旦水とともに濁り



も覚えてしまった。余計なことではあるが、森林対策を疎かにすると各所で湧き水は枯渇、雨頼りの時代になってしまう。すでに半世紀前と比べると、この地方の河川水は半減どころか三割(湧水期測定)までに減少してしまったといっても過言ではない。

・四谷の千枚田は山崩れが頻発、その場所を再度、開墾し…などと云われているが(舜)の独断と偏見で歴史を紐解くと山崩れは永禄十年(1567)、今を遡ること四百五十一年前に赤松神社大代地内の山崩れの記録と明治三十七年(1904)の山津波が記録にある。一つの山崩れは、

共に天王川上流のほぼ同じ場所で発生、前者は赤松(通称:まんじゅう山)の大代向きで字名も「大崩」^{オオナギ}となっているが人災、災害規模などの記録はない。後者は死者十一人、怪我三十四人、家・本戸四、釜屋一、隠居屋三、馬二頭と被害をもたらした。ナギ元はあまり大きく感じないが長雨による地崩れで栃の木が小沢を塞ぎダムとなり、決壊してはダムとが三か所で起こり、約六百リットに大きな災害をもたらしたことから地元では山津波と云われている。これは明らかではないが、現在の佐賀地内に通称:小野組という集落があり、与良木のサカ(小字名)へ集団移転した事は確かであるが、これには諸説あり、山崩れが原因であったかは疑問が残る。そこで、知恵者(古老)や移住者宅などからの聞き取りから「…で、あったではなからうか?」を推察してみた。①通称:小野から与良木字サカへ集団移転した家屋(昭和初期の戸主)は今泉弥三郎、原田豊徳、原田勝造、塚田重作、原田清吉、原田彦吉、今泉五三郎、松下仙重であり現在は二戸が住んでいる。②集団移転した経緯と時代に

については諸説あるものの、定かな記録はなく、移転した家屋跡などは見られないが移住者の田んぼ(地権者)や宮地が纏まってあり、今を以って、借地の年貢に酒一升を届ており、現在の水車小屋から上方に集落があったことが実証される。移転した経緯については「天保の山崩れ(約180年前)」とか「天正元年(1572)新しい伊那街道開通とともに、その街道沿いに集団移転した…」などの説もあるが前者はすでに集団移転しているし、後者は赤松の山崩れとほぼ同時期にあたるにも関わらず災害記録もないし、伊那街道開通とともに移転した…」にも疑問が生じる。(舜)は古老や移住者家からの「げなげな嘶」的に纏めてみると、集落全戸が一斉に移転した原因は急峻な鞍掛山から、いつ何時、転石(昭和三十年初頭までは、ほぼ全山草刈り場であった。)があるか危険を背負っての暮らしから、より安全な場所への集団移転は大きな決断であったと思われる。では、何時頃の時代であったかについては移住者宅の位牌や聞き取り、また、歴史年表などに小野村の記載が表れることから約二百



松指岩の石積柵田(大林地内)

八十年から三百四十年前頃の出来事と推察した。(与良木村は見当たらない)いずれにしてもネットを開くと四谷の千枚田は「山崩れ、山崩れ」と謳われているが、根境の後口山(俳優渡辺いっけいさんの母親の在所)にも二十数枚の柵田があり、大代や与良木の衆が耕していたが、鞍掛の裾に広がる台地(通称大平)のためか転石はあまり目立たない。逆に大林集落は転石の危険度も高く、昨年までに落石防止柵を設置したり、転石

の危険度の高い巨岩を破砕したりして集落の安全対策を講じていたのだいた。この地は、約千五百万年前の第三紀設楽層群で、鞍掛山、宇連山、棚山、鳳来寺山は設楽火山の名残の山であり、地殻変動(火山活動)による土石流のあった処でもあり、田んぼの石積みを見れば山から転がってきたことがよく解る。

モニターツアー

二月十一日、十二日の二日間「新城市モニターツアー」のガイドを行った。この事業は愛知県在住の外国人に新城の魅力を広く知ってもらうための集客キャンペーンである。

十一日は中国、韓国、台湾などアジア圏の家族、大学生、社会人で、ガイドよりも流暢な日本語の質問が飛び交った。千枚田では自然の豊かさや急傾斜の田んぼを守るお百姓さんの力強さを称賛。鳳来寺山の東照宮では徳川家康生誕の話に興味深々、驚いたことに信長、秀吉、家康をよく知っていたが長篠合戦は知られていなかったことである。十二日はエジプト、エクアドル、インド、ロシアからで、多様性に富んだ千枚田の説明を名古屋大学の

学生さんの細やかな通訳に聞き入った。日本三大急傾斜地の石積みの柵田を見て「日本のピラミッド」と称賛。この、二日間、異国人と触れ合いに満足感を得た。



朝、思い付きで、蕾の付いた梅の木にツララの花を咲かし喜ばれた。

研修旅行

二月二十四日、連谷明朗クラブは日帰りの研修旅行を三河温泉「海遊亭」大衆演劇の観劇と海鮮料理・カラオケバトル、また、海産物直売店「ヤマスイ」の視察を行う。

行 平成三十年二月十五日
鞍掛山麓千枚田保存会
発 文 責 小山舜二